

んか。世界の歴史はもつと大きな悦びや悲しみで我々の心情をきたへ成長させてくれます。

今日は実は手紙を書かないつもりだった。もつと慎重に考へて、あなたを労はり乍ら書かうと思った。だから今日は小包だけつくつて、手紙は明日でもゆつくり書かうと思つた。でないと、あなたは、僕を「女の感情を理解出来ない」とか、「思ひやりがない」とか、「独善的」だとか、いろいろ僕の耳馴れた言葉で批難しやめないだらうと思つた。けれど、女の感情と云ふのが、十六日のあなたのお手紙のやうなものだったり、森井さんの固執のやうなものだったりするのなら、そして女の感情を理解しないと人間が前進出来ないなら、歴史は一体いつ進むだらうかとも考へられる。「思ひやり」も必要だが、もつと必要なことは、前進的努力、世界觀努力と生活努力、創造的生活でないでせうか。さう思つて、僕は今もう森井さんを相手にする気は全然なくなつてゐるのですが。

とにかく小包を作つて了つて、一気カセイに手紙も書いて了つたのです。あなたの、さう云ふ「気分」的な内省（前日の手紙はまるで違ふ調子なんだから）に一々全力をあげて答へてゐたのでは、創造的生活は進まないし、第一僕の気分が甚だ非前進的な困迷（クワシ）に引き戻されていけない。説明不足や書きかたの乱暴はあつても、一気カセイに書く必要があつたのです。こんな書き方ではやつぱりまだあなたの疑惑は晴れず、同じやうな手紙がまた来るかも知れないが、その時はまたその時。

小包の中味は、お茶、あなたへの買ひ置いたプレゼント、タバコ、赤ちやん下駄、本（スメドレー二冊）等です。外に、番茶少しとタバコとコーヒーと砂糖（ヤミ）とは、小包用紙がないので、もう少しあとにします。コーヒーと砂糖とは、あなたの気分を慰めるために、少し苦勞したものです。砂糖は実はまだは入つてゐない。とにかく身体に精神を支配されないやうに。努めて、精神で身体を支配するやうに。小包の中味は、つまらぬものばかりだが、之でもお値段はすべて相当なもので、僕の気持だつてせい一杯にこもつてゐるのですから、品物だけで判断されないやうに。では。元気を出して下さい。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二〇日の記、二二日の消印）

一月廿日

今朝は四時半頃、半鐘の乱打で目を覚ました。路では大声で叫び乍ら人が走つてゐるし、てつきり爆弾が落ちたと思

つたら、松尾へゆく坂の上で大火事でした。火事だと云ふので安心して、床の中にゐました。桃ちゃんが暗幕を除くと、窓が真っ赤に見える程でした。昨夜は五寸位雪が降つてゐたので、其のきれいなこと云つたら、早く起きて見てごらんと朝ちやんと口をそろへて云つてゐましたが、寒いからと云うく見ませんでした。うちではお母さん、不二ちゃんねこんでしまひ、何かと雑用多く、昨日はとうく一ページも何も読めませんし、手紙も書けませんでした。今日は朝ちやんがお当番をしてくれるので、大分暇が出来相です。ふうちやんが病気をすると、早苗の世話が出来るので、二人分の仕事が増えます。

アメリカ史は線を引き乍ら読んで来ましたが、とうく第三章の南北対立の爆発のところからは、矢張りノオトをとり始めました。一応終りまで行つたら、第一章からノオトをとつてしまふつもりにきめました。二月からの新プランにはいるのは、すこしのばさなくてはなりません、一結局一寸もまはり路でも損でもないのだから、あるひは三月に這入つてからになつてもかまひません。他の偉い人達も抜き書きやノオトをとり乍ら物にするんですから、私如きがスラくくつと読み流すなんて事は、もつての外だと思ひました。

昨日はとうくあなたの手紙が来ませんでした。原稿でいそがしかったのでせうね。ここまですして、あとは又、午後に書きませう。

おひがすんで二階へ来て第三章の二、南北戦争を一応読み終り、ノオトを三行位とつたら、どうにもたまらぬ位ねむくてねむくて、とうく枕を出し、どてらを出し、三時までねむつてしまひました。桃ちやんが帰つて来て、あなたのNo. 8十七日附を渡してくれて目をさました。其の時の夢は私がシドニイさんと云ふ(ピユトアの様な人の想像の生んだものが、現存する人間に当てはめられて出来た)変な婆さんになつてゐる夢を見ました。シドニイさんは使ひ歩きの妙な婆アさんです。誰も知つてゐて、実は知らない。シドニイさん自身も、自分を怪しいと思ひ乍ら、飯空のシドニイ



さんになる丈似様とつとめてゐます。古ぼけたコーモリ傘と大きな買ひもの袋、しまのモンペ、茶いろの男外套の短いもの、いぼぢり巻、「ハイ、ハイ」と出来る丈奇妙な声と表情で返事をする。次の世にシドニイさんに生れ変ると云ふんなら、もう二度と人間はおことわりです。

「アンソニー・アドヴァース」送つて下さる相でありがとう。実は時々、あの映画を思い出すので、あの時、沢山本屋にあつたから買つとけばよか

った、と思つたものです。アンソニーが後年、アフリカへ行つて奴隷がりをする面を思い出すからでせう。あの場所（アンソニーの育つた）は何処だつたのでせう。ニューイングランド辺ぢやないかと思つたり、ヨーロッパの様でもあつたり、たしか戦争もありましたね。

私のわるい手紙は随分あなたを傷つけて本当に／＼すみません。とことんまで自分を苦しめた揚句、まだ足りなくてあなたをまで痛めつけた事は、本当にわるい事でした。あなたは幸福で、元氣であるからに／＼と思つたのでせうから、ゆるして下さい。もう一寸もそんな泥沼に足をすくはれる様な事は当分ないと思ひます。さんざん苦しんだ末、泥沼を渡り切つて新しい土地に足を下ろした様ですから。渡らなくてもいい泥沼であつたかも知れませんが、渡つて苦しんだ事は損でなかつた様にも考へられます。

八路军も現代史も送つて下さる相で安心致しました。アナトオル爺さんは白き石で、一寸息つきの状態で、アメリカ史へはいつたので、其の後は中絶してゐますが、これは休息のための読書の分へ組んであるから、ゆる／＼とよもうと思ひます。白き石は、実にすばらしいですね。私も実は、あなたにもう一べん読む事をすゝめようと思つてゐました。人種問題についても実に氣持よく、短いが適切に書いてゐますね。人種問題と云へば、リトルページに出てゐたニグロの歌手の話は書きましたね。

「ソ聯政府は一九二八年以後、法律で人種的偏見は刑法上の犯罪として取り扱ふ宣言をしてゐる。私はアジア地方を旅行してゐる間、他の如何なる犯罪よりも、此の犯罪が速かに必罰されるのを見た。／＼共産黨員は「総ての民族は其の潜在的能力に於て同程度であると云ふ彼等の信念を強調して、若しも凡ての人が同じ機会を恵まれさへすれば、皆同程度に達し得る」と云ふ考へを持つてゐる。だからソ聯邦の各種の種属及アジア人種に対して、最初の可能な時に、同一の機会を与へると云ふ事に決した。彼等は不釣合な程の資金を、アジア地方に学校、病院を建設するために投じた。／＼アジア地方の民族共和国に関する限り、彼等はそれを工業化するまでは、絶対に其の社会を進歩せしめる事は出来ない、と云ふ考へを持つてゐる。彼等の云ふところによれば、農民社会、特に遊牧民社会は、其の社会出身の産業労働者に依つて發達せしめられぬ限りは、何時までも未開の状態を保つとどまるんだと思つてゐるらしい」と書いてゐました。

同様の考へ方が男子と人間の同等な婦人労働者や将校を作つて行つたのでせうね。竹中さんの読んでゐる合衆国史は六盟館の方ですね。私は叙述が氣どつてゐると思はない。あれは何時もあなたの文章の癖ですよ。追ひかけ、たたみかけ、息苦しいまでに引きつづつて行つて、頂点でぽんと切り離す様なところを、竹中

さんは指すのでせうが。実さい面白いけれど、煮つめて、濃くした感じがあります。うすめてのむ方がのみいし、エッセンスをそのまゝだと、どうも中々うけつけず、そのまゝ出てゆく恐れがある。私がノオトをとるのは、結局水をわつたりうすめたり、のみよくするためです。「読者の努力」の不足があたり前に思はれてゐる私達の習慣では、努力せず楽によめるものが普通である様に思つてゐるから、とかく文句が出るのでせうね。そこで多いに「読者の責任としての努力」に就いて、もう一度弁じたら如何？ それは著書をも読者をも——全般的な国民のレベルの向上をもたらずでせうから。実際、楽に読むこと——結局栄養の少いものである事を再認識しましたから。

哲学ノオトを見ても「本當の栄養をとる事」について、つくづく感じさせられました。あゝすればこそ一冊よむことは、一冊の知識が読み手に移る、と云ふプラスマイナスなしの移行ではなくて、一冊が彼の努力、勉強を通して、より新しいプラスになつて、即ち新しいあるものを加へる、生み出す事になる。読書の弁証法です。哲学ノオトを眺め乍ら（読んだと云へない）教育者とか学校とかについて、すこしばかり考へるところがありました。又生徒も学問に就いて、与へられた杖をそっくりうけとる事が最上である、と思つてゐたことや——それやこれや私共の教育のされ方、勉強の仕方について考へました。

羽仁さんの「学生と歴史」の中の言葉で、歴史の勉強に就いて云つてゐるところ、あれは歴史の勉強に限らず、私共の考へ方、生活法、勉強——一切の世界観に適用される事でありました。

「歴史が他の学課より詰らないと云ふと、其の理由は他の数学、科学と異つて、諸君の各自の証明や分析や判断や、凡そ諸君がそれについて、何等かの事を自発的にたしかめたり、考へたり、思索してみると云ふ、各自の識見や努力をゆるさない、唯一の学課だからだ」歴史は暗記ものだと、すましてしまふ。人間の頭脳の働きは、ものを見る観察力と、物を考へる推理力と、ものを覚える記憶力との平均が必要であるのに、記憶力ばかりを要求すると、観察力や推理力が減退してしまふ。「記憶力の偏重が、独創力の欠乏となるのだ。独創力のないと云ふ事は国家の不幸だ、独創力を養ふためには自分の目で物を見、自らの識見（しけん）ものを考へ、自ら発言せねばならぬ。」

まあ、こんな風な事を方々で云つてゐますが、特に私共、女の場合は歴史に限らず、修身、倫理、家事、一切は記憶尊重であり、批判めいた事を云つたり思つたりは、女の場合もつての外でありました。一体に、日本の教育は始んど記憶尊重です。だから新らしいものを生みだすなんて事は出来る相談ではないし、理想は与へられたものをそっくり次にわたす事だつたのです。推理も判断も、独自の意見も見捨てられた基礎教育をうけた国民が、批判したり努力したりし

て読書する、なんてのは相当むづかしい芸当でせう。併しそれをつき抜ける様に努力すべきでせうね。それは知識人を自負する人の任務です。

私のむくみもへつて来ました。今月末までには状態(病状)に復すと思ひます。あなたも戦時病で即死などせぬ様、葉かなんかで調節して下さい。毎日爆音のきこえない日はありません。今日はおひる前にきこえましたし、昨夜もきこえました。では又

謙一から幸子あて（一九四五年一月二〇日の記）

一月二十日（土）晴

本日のおあなたのお手紙は、昨日のちがつて「晴」の方です。あなたのお手紙が晴か曇りかによつて、僕の一日の晴曇が決定されます。この頃郵便受けでああなたの手紙をみつめて封を切るとき、「晴れだらうか曇りだらうか」とつい緊張するくらいです。今日のお手紙の調子なら、今朝こちらから出した手紙も、わざ／＼書きなほさなかつたが、それでもよかつたと思ひます。併しあなたの一生けん命に書いたことに対して、僕の書きかたは不機嫌すぎた、とやはり悔む気持もあります。

僕はたしかに諄々と説くと云ふ気がまへも才能もなさすぎるのかも知れませんが、僕の器ウツバが小さくて、精神がおほらかな働きに適しないのでせう。僕もまた「気分」で書いたり云つたり行動したりする傾向が強くて、あなたの「気分」本意傾向を批難出来るがらではなささうです。今朝の手紙も実はもつと適當な、「諄々と説く」式の形式に書きなほしたかつたのです。けれど問題が問題なので、即ち考へても余り考へ甲斐のないやうな弁護的な防禦的なもので、さう云ふことに気持が向かなかつたのです。その結果、あなたの「気分」や感情を懇切に理解したとは云へない乱暴な不機嫌な調子になつて了つた。

しかしあなたも固執しすぎるのです。僕はあなたとの結合に本質的な、克服し得ざる矛盾を見出したことは全然ない（感情的に一時、誇張した言葉をつかつたことはあつても）。そも／＼結婚の最初から、いつでも「別れる」と云ふことの可能性や不安をもち出したのはあなたの方です。さう云ふ時のあなたの論拠は、大ていあなたの僕の心についての誤つた憶測、僕があなたを必要としないだらう、あなたを愛さなくなつてゐるのだらう、嫌つてゐるのだらう、もつと別

な人を欲しがつてゐるのだらう、と云ふ風な忖度です。所が実際に僕がそんな氣持になつたことは絶対にない。あなたが僕の性的情緒欲求を満足させてくれなかつた時、漠然と氣まぐれにあなた以外の対象を求めるやうな氣持にならなかつたとは云へないかも知れないが、僕はそんな性慾だけで行動する人間ではなかつた筈です。だから僕は、あなたと別れることなんかをまじめに想念にのぼしたことは絶対にないのです。それどころか、あなたから見ても無論不十分ではあつたらうが、僕はいつでもこの七、八年間と云ふもの「僕達」と云ふ夫婦単位のありかた考へかたをとつて來てゐるのに、あなたが時々女權論者風に個人単位の考へかたを示すので、腹を立てて來たはずで、僕はいつでもあなたと一緒に考へ、見、行動しようとするのに、あなたが必ずしもそれを受け入れないのを不満にして來た筈です。僕達が「おしどり夫婦」と云はれるとしたら、それはあなたがいつも僕について來たからでなく、僕がいつもあなたをつれて來たからです。僕はたしかにエゴイストで我がままな行動をして來たかも知れない。けれどそれは、「夫」として我がままであつたのではなく「人」として我がままだつたのです。「妻」に対して我がままだつたのではなく「幸子」に対して我がままだつたのです。

要するに僕は最初から今まで、いつでも、自分の前進のためにも、生活のためにも、氣分のためにも、あなたと云ふ個人が強烈に必要であり、あなたを、あなたの総てを欲求して來てゐるのです。だからこそいつでもあなたに文句を云ひ、腹を立てましたのです。だが僕があなたに文句を云ふ時は、別れると云ふやうなことを考へたり口にしたりした覚えはない。いつでも二人一体でありたいからこそ文句を云ひ腹を立てたのです。僕はあなたを弟子だとか子供だとか云ふ風に思つて來はしない。いつでも友であり、対等の人間だつた筈です。対等の人間に対しては僕は自分をせい一杯の形で提出して行くだけです。大人に対して薬をオブラートに包む必要はない。妻に対して、保護者風に、指導者風に、教師風に、先輩風に言動することこそ、即ち対等以下の人間としてあつかふことこそ、正しくないことです。相手に対して全身的に向ふことは、相手の人格を尊重することです。対等の人間に対しては、懇切と云ふことは余計なこととも云へます。「懇切」が必要なのは対等でない人間を「導く」場合です。僕はあなたを「導く」のでない、あなたと共に進むのです。さう云ふものとしてあなたを常に欲求して來ました。その欲求に満足させられなかつた時、僕の人間の器の小ささのために、乱暴な感情的な言動もしたかも知れないが、本心はその欲求を持続し發展させて來てゐる。疎閑だつて、その実現のしかたに唐突さや乱暴さ、不親切、強引さ等があつたにしても、結局は、自分達の生活を守りつづけるためです。外部の破壊力から守るために、一時我々の結合の形式を破壊しただけです。いはばたたかふために輕装したので

す。そして非戦⁽¹⁾闘員と大切なものとを安全地帯へうつしたのです。

だがこんなくどくどしたことを昨秋来何度書いて来たことせう。何度書いてもあなたはちつとも聞く耳をもたないかのやうに問題をむしかへし、くりかへすのです。昨年末に、もうこの問題でお互ひの精力を浪費するのはよさうと云ひあつたのに。とにかくあなたの疑惑は、あなたの精神が身体や気分や天候の支配を脱しない程度の弱さにとどまる限りなくならない。僕がいくら説明しても駄目だ、僕達二人の前進が妨げられるだけだ。あなたの精神なり世界観なりが強力になつたらきつと氷解するでせう。健全な精神は健全な肉体にやどるが、逆に健全な精神は肉体の健全化にも作用する。精神は単なる受動態的なものでなく、同時に能動態的なものだ。精神をいつも能動的にして始めて歴史は進む。それにしても外の問題、特に歴史や文学や社会の問題で、昨年来急速に理解力が増進し、デンケン(思索)と云ふことを本当の意味で知つたあなたが、この問題ではどうして一歩も進んでくれないのでせうね。この問題ではあなたは全く森井さんのそっくりの形で固執するやうです。僕の言葉をちつとも受け入れず、問題をこんぐらかせますね。今日のお手紙なんかの、アメリカ史の理解、S氏のこと(ゴールド・ラッシュ)、哲学ノートについて、すべては僕の感じたいことをそっくり感じ、読みとつてゐます。リトルページの本の論評なんかは、あの本の急所を立派に把握してゐるし、文句のつけようがないほどです。ギリシヤ悲劇のクリュタイメネストラを除いて、あなたの昨秋からの外界現実についての批判・感想は、全く申し分がないのです。之はいつも云ふやうにお世辞ぢやない。あなたの本の読みかたに僕は全的に信頼出来るので、之からは僕が読みたくてもひまがないやうなものを、あなたに読んでもらつて、ぬきがきか感想かを作つておいてもらへばいいと思つてゐます。之は昨年の疎開前までは必ずしもかうでなかつた。シェークスピアでもルカッチでもバルザックでも、あなたのオリヂナルな意見はまだはつきりせず、大てい借り物に近くて、独立してゐなかつた。所が昨秋からののは、本当に独自ので独立してゐて、現代の文芸批評家や社会批評家なんか問題にならないほどの水準に達してゐると認めます。もう少し政治と歴史と哲学とを勉強すれば、中条氏なんかよりもつと立派になると思ひます。

所が二人の生活の問題になると、どうも感情的で、不正確で、進まない。無論、之も我々が別々に住んでゐて、あなたの生活が心身共によき環境、よき条件にないことの結果でせうから、当然かも知れない。けれど我々は世界の事態をはつきり見きよめる必要がある。我々は二人そろつて生活して行ける時代にはないのです。我々はまだ二人そろつて生きてゐることを幸福と思はねばならないほど、一般的に生活の条件は正常でないのです。我々のありかたは、この正常なら

ざる条件へのたたかひ、歴史的なまた個別的なたたかひであらねばならない。そして僕は応召その他の理由で、今ここにかうしてゐるのが不思議なくらい、生活の持続が保証されてゐないので。さう云ふわけだから、むろん、あなたと二人一緒に住む時は、もう来ないかも知れない。会ふことさへないかも知れない。我々の生活は正常な形ではもうあり得ないかも知れない。我々以外の人々の大ていは既にもう終つてゐるではありませんか。不二ちゃんの場合なんか。世界の歴史は我々をかくの如き状態においてゐるのです。さう云ふ時代に我々が、二人一緒にゐることを自己目的にするなら、我々にはかないものでしかないのです。かう云ふ時代を強く生きることのためには、一人がどんな外形上の不整、破壊の条件にあつても、常に歴史と共に生きることによつて二人が精神的につながることを外ない。僕が兵營へ行つても、戦場へ行つても、他の所へ行つても、僕は精神的つながりに於て生きぬける、そして一切がすぎた時、本当の生活が出来る。僕は、二人がどうあつても相会へないやうな生活に、最も身近かにゐるのです。さう云ふ生活を生きぬくためには二人が相互にしつかりと自立してゐなければならぬ。二人が世界觀的にしつかり自立してはじめて、何年會へなくとも二人の結合に不安はないのです。

僕は昨年春まで、あなたの世界觀の自立性に充分信頼をもつことが出来なかつた。だから一生けん命に二人の世界觀努力をやらうとした。経済學の勉強や歴史の勉強をやらうとした。ところがどうにも信頼出来るものにならなかつた。そして「プランテイション」を読んでもらへなかつた時、絶望にも近い感をもつた。一緒にゐてどうしても二人の世界觀勉強が出来ないなら、別々にゐても同じだと云ふ感じもあつた。所が秋の「プランテイション」讀了と文通とが、二人一緒にゐる時にどうしても獲得出来なかつたあなたの世界觀の自立性を得させたのです。むろん昨年春までのあなたの勉強もすべて効果して来たのです。けれど現実、あなたの世界觀的躍進は僕との別居、精神的暴君とは云へなくとも、よりかきりかも知れない僕からはなれての生活に於て實現した。疎開の意図は二人の精神上の問題を含んではゐなくて、ただ生活を來るべき破壊から守り存続の道をはかる、と云ふ所にあつたが、結果から見ると、將來の二人の前にあるいやおうなしの別居生活への精神的準備になつた。

僕はかくて、この別居に於て、真にあなたを妻として確認出来た。だから二人一緒に住まうとあなたが云ふし、僕もそれを欲求する。だが僕は二人の生活だけでなく、社会的歴史的の生活にもつながつてゐる。僕は仕事を一通りやらないではここをやめることは出来ない。またそちらに仕事をみつけなければ、生活して行けない。かう云つた形なのです。で要するに我々は、大きく歴史なり時代なりを見ること、そして我々の生活が、二人一緒にと云ふ正常の形態をもつこと

の困難を、歴史的時代的に見ることに、その上でギョウウ幸(ゲウウ倅)に二人一緒に生活出来る方法を期待すること、二人一緒に住めなくても、二人は夫々に最善の歴史的生き方をして行くこと、即ち僕は仕事をし、あなたは世界観努力をし、子供を育てること。こんな風に最悪の場合を考慮しておけば、空廻りの不安や疑惑なく、前進生活にうちこめるのではないでせうか。何だか、ちよつと悲壯な風な調子になつたが、一応こんな風に見ておいて、そして生活の前進に全力をあげようではありませんか。

小田中さんの手紙を送つたのは、小田中さんと云ふ人をわからせるためです。新しい人になるだけ正確にあなたへ紹介して、二人の生活交流を緊密にするためです。それに彼女の手紙の紙が軽くて同封しやすかつたせいでもある。イリンの「山の話」はそちらになかつたかしら。

では今日は之だけ。

之を書き終つたのが午後三時半。それから間もなく小田中さんが本室からの帰りにここへ本を借りに寄りました。あなたから「書物の歴史」が送つたと云つて来たから、と伝へておきました。そして「インディラ」二巻と、バヂーギン(之は調査会の)一巻とを渡しました。彼女は今僕のアングロ・サクソンの米国史を読みかけてゐるさうです。

歴史のこと、日本語のこと、僕の文章のこと、唯物論と観念論のこと、自然と人間の歴史のことなど話しましたが、彼女は理解困難や疑問の所では必ず、眉をちよいとしかめて考へてみるくせがあり、わかるとその眉がパツとひらいて、顔全体がニコ／＼するので、眉がしかまると僕は話しやめて、彼女の考へるのを待ち、質問を誘つては説明し、と云ふ風に、ちよつと面白いです。僕の文章はわかりにくいのが、ゆつくり読めばわかると云つてゐます。まだいろんなことで、言葉の説明からやらねばならないのでひまはとれますが、中々よく考へるやうです。五時もすぎで暗くなりかけたので、火を起すからと云つて立ち上り、彼女に帰るやうにしむけたら、立ち上りながら、結婚の問題がさし迫つてゐるのだと云ひ出して、それについて聞きたいらしいので、また腰を下して半時間ぐらゐ、竹中君や白田君の例でその原理を話しました。彼女のお父さんは船に乗つてゐて、今度いよく比島へ行つたださうです。兄さんが去年春戦死し、お母さんは一昨年秋死に、この十二月にお父さんがうんと若い後妻をもらつたばかり。お父さんが今生の別れかもしれない所へ行く時、後見人のやうな親戚に結婚のことも頼んで行つたので、その方の話があると云ふのです。

「今までだつたらあたし、そのまま世話してくれる人にお任せしましたわ。でも今は疑問になつて来たんですの」。だが、まだ、「恋愛のない結婚は不道德である」と云ふ命題は余り唐突すぎて、すぐには受け入れられない様子です。「うんと

考へて「ごらん」と云つて帰へしました。彼女は信州からのおみやげに、小さい樽には入つた信州みそ、をくれたので、みそしょう油がまだ買へなくて弱つてゐた僕は、大助かりです。このみその中には、なすのみそづけもは入つてゐる。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二二日の記、二二日の消印）

十二月廿一日

No.10 一月十七日附お手紙唯今（十二時）うけとりました。

本当に本当にごめんなさい。全く私はわるかつたのです。本当にすまないと思つて、唯、泣き度くなりませう。どんなに私がいけない奴だつたか、今度こそ本当に解りました。どんなにでもあやまります。あなたの仰言る通り、私は一寸もあなたの心持をとりあげませんでした。唯、責めたり、嫌がらせをする丈でした。本当にごめんなさい。

唯一ツ心外なのは、邪魔者と云ふこと、あれは前にあなたが云つた、あの事を何時までもとりあげて、そればかり持ち出してゐたではありません。あの時は、私は自分でそれが不当な言葉だと思つて怒りました。いはば、自信（まぢがつた）が有つたのです。私は実は邪魔者なんかではない、あなたがそんな事を云ふのはあなたの利己主義だと思つて、あなたに怒り散らしました。でも此のごろの手紙でそれを云つたのは、私が自分で自分がさうだと判断出来たから、さう云つてゐたのです。あなたの前に云つた言葉を、そのまゝ引きつづき使つたわけがなく、同じ言葉でも内容は異つてゐたのです。後で使つてゐるそれは、自信のなさから生れて来たもので、本来的に私自身から発してゐるものなのです。くだい様ですが、あなたがそれを私に云つたから、私がそれを楯にしてゐたではありません。事實は、今にして思へば、あなたをそのことで責め立てたのではなくて、自分を責め立ててゐたのです。

ですから弁解じみませけれど、あなたがどんなに慰めてくれ様と（あなたから発したものでなく、私から生れ出たものである故に）、私はそれを納得出来ないのです。あなたを疑ぐる故に信じぬのでなくて、自分を自分で疑つてゐるので、外からの否定は否定にならぬのです。だからどんなにあなたが私を大切なものと云つてくれても、私は信じないのです。あなたの人格を信じないのではなくて、あなたが云つてくれる私の評価を、私自身認める事が出来ないのです。

そして私の心は慰まぬと云つて、あなたのせいである様に云つてしまつた。でも私は真実、あなたにふさはしいもので

ある自信はないのですもの。だから其の悲しさを、何とか表し度いと思つてゐ乍ら、自分でもどうにも出来ず、あなたに当り散らしてゐたのです。本当にあなたを信じないのではなかつたのです。自分の不がひなさ、低さ、自信のなさ、卑少さをおぼろげに知つて、其の不安（あなたにふさはしくないこと）焦慮が何処から来るのか、明確に察知したり把握したり出来得なかつたために、自分に対する不まん、腹立から起つて来る一切の不まん足を、あなたを対象にぶちまけると云ふ誤つた形をとつて来たのです。今、それがわかつた様なのです。それで、私があなたを信じぬために、あなたに疑念を持つために、あなたを苦しめてゐたのではない事がわかります。正体は自分に対する不まん、不信、懷疑なのです。で私は、あなたが唯信じてゐなさいと云ふ言葉を与へる時、すぐに平静を失つて、押しつけがましいとか一方的だとか、とに角非難の対象を誤つて、あなたに不まん足をほとぼしらせましたのです。

で、あなたに云つた一方的、押しつけがましき、無理解、独善、利己主義等一切の非難は、本当に誤つた方向に向けたものである事を、改めておわび致します。その逆であつた事が、どうしてもその時の私には理解出来なかつたのです。くどく、くどく、あなたに悪があるかの様に責め立てて、あなたを深く傷つけ、仕事の障害をして来た事を、本当にゆるして下さい。どうしてかう私はものわかりがわるいのでせう。

「愛し方の不充分」と云ふ事もたしかです。私の考へ方、認識の低さからは、充分な愛情は出て来ないのですもの。低い段階で其の限りでの愛し方しか出来ないのですから。でもあなたの云ふ様に、あなたに対する偏見の固執、不信からではありませんわ。愛しても求めても、其の対象にあまりにも「ふさわしからぬ己」の自覚が、対等の健全な積極的な愛情とは比較にならぬと云ふ意識から、一苦しみ悩むのですから。要するに、問題はあなたと私との相対的な関係にあるのではなくて、私自身の裡にあるのです。私自身が私自身に自信を持ち得た時、即ちあなたにふさはしいと云ふ観念を得るに至つた時、解決出来るのではないでせうか。

こんな事を書き乍ら、ふつと思つた事は、大体私が自信を失つたと云ふ自覚を持つた時、持つた動機を一寸思つてみますと、考へられる事はあなたのプランテーションでありました。プランテーションを読んで、あなたへの評価の変つたこと、それ以前まで私はあなたとの関係に於て、たとひ邪まだと云はれたとしても、何をツと云ふ気構へがあつたのです。一口に云へば、あなたに対する安心感もつとくだけば、あなたは私にとつて、それ程離れてゐないと云ふ、あなたと私とはそれ程認識力、考へ方、世界観の把握で距離はないのだと云ふ安心感（？）があつて、私は其の気になりさへすれば、あなたの仕事も充分わかるし、努力なしに理解しあへる、ぴつたり一ツだと云ふ心持があつたのです（これ

は後になつてわかつたのですが。だから、私を疎解（解）させたのはあなたがわるいとか、女友達とあまり仲よくしちやいけなとか、其の他いろいろ勝手放だいを云つたし、云つて来たのです。つまり、さう云ふ事を何等の Coryo なしにばつくと云ひ放つて平気な安心感、あなたの氣持なんか何時だつてちやんとわかつてゐるんだ、と云ふいいきな考へ方をして、何とかかんとか責め立てても、実はその一方で安心立命を持つてゐたらしいのです。

ところが本式にプランテーションにかかつて、其の考へ方に動揺が起り始めた。あなたは私の知らないまに、はるか彼方へ行つてしまつてゐた。これはとうてい普たいていの努力なんかでは追いつけない、とても追いつくまい。其の距離を私が知つたのは今なのだ。併しあなたはとつくと知つてゐたと云ふこと、この事はあなたの私への疎外を感じさせたのです。驚くと同時に、今の自分の位置を嫌と云ふ程知らされた。嫌と云ふ程。計り難い距離を。さうしてのんびり安心してゐた私の怠惰を思ふ存分知らされた。それなのにあなたは平然としてゐて、安心立命しつつ積極的に思ふ存分エネルギーを他方面にもやしてゐるのだ。どうして安心してゐられよう。不安と焦慮が起きて来る。焦る程、距離は大きくなつてゆく。そして自分に対する嫌悪（即ち、いい氣でぐうたらし乍ら自己満足してゐた）にやかれる思ひがする。

あなたはゴレム程大きく立ち乍らはるかへ進んでゆくのに、ひよつと気づいた時、私は影がうすく、あはれに小さい事が目に見える。あなたはそれを知つてゐる乍ら意に介さぬ、即ち私を問題にしてゐぬのだと思ふ。其の不まん、あせりが自分へ向かず、あなたに向つて吐き出される。あなたがわるいんだ、あなたのせいだと責め立てずにはゐられない。さうすれば、あなたは振りかへつて戻つて来てくれるかも知れない、さう思ふ。さうしてあなたに難だいをふきかける。私が淋しい孤立の生活なのに、あなたは沢山の友人をもつて、にぎやかでにくい、と云ふ。するとあなたは其の位置から、それはお前さんのまぢがひだよ、お前さんもここまでおるで、と云ふ。

併しどうして其の大きな距離を、其の一言で一足とびにとびこせよう。私は唯あなたが同情がない、理解がないと云つて、叫び立てる外はなかつた。さうする中、段々と其の不まんの原因は自分にあるらしい事がわかつて来る。併しどんな風にあるのかはつきりしない。唯もう自分は駄目なんだと云ふ自己嫌悪の方へ、一歩／＼落ちてゆく。さう思ひつつあつた時―さう思つた事が一ツの原因でもあるし、悪阻のせいも加つて、身体は思ひの外わるくなる。食欲不振も頭痛も目まひも、読書の努力を駄目にするし、さう云ふところへ、あなたが白田さんがゐなくなつて淋しいとこぼして来た。すると私は、そこにも又、自信を喪失する一ツを見つけた。私よりももつとあなたを慰め、力になり得る人のあること、あなたも又それを求めてゐることを、其の事から知る。で、いよく私は、も早やあなたのふさはしい伴侶たる資格の

ない事を確信する。其の私の出来るセイゼイのあなたに対する善（これは利己心からのものでなく、最も正しいものたらしめようとの）は、私とも早あなたの邪ま的存在から引くことに他ない、と思ふに至つたのです。あなたは私が唯嫌味を云つてゐると思つた様ですけれど、たとひ誤つてゐたにせよ、私は嫌味と云ふ消極的な意味で云つたのでなく、もつとあなたのこれからの「仕事」のために、個から離れて積極政策に出たつもりでした。それが誤つてゐた事はわかりましたけれど。でもあなたは、私のさう云ふ悲しい気持を、唯悪口でふみにぢつたのです。私はますます自己嫌悪に落ちてゆく。

以上（もう書くのがめんどうになりましたから）の様な次第で、あなたを信じないのではない事が解つて下さるでせう。だからどんなあなたのはげましも力づけもまことに当らない訳でした。結局何度も同じ事をくり返す他はありません。あなたを信じてゐないのではない。あなたの愛情や信頼に任せぬ自分を苦しんでゐるのです。併し、其の事があなたをそんなにも傷つけ、苦しませ、いら立いらだせてゐるとすれば、私はすまないと思ふのですが、どうしたらいいのか。苦しくて涙がこぼれる丈です。

私はあなたを愛し、信じ、誇に思つてゐます。戦争の凡ゆる危害があなたに及び、あなたの生命をこめての仕事を邪まする事を、どれ程脅おそれ心配してゐるでせう。さうして、もつと大きい脅おそれは、私があるを「あなたが在る丈の分量」で理解出来ない事なのです。あなたの全部を（考へを）知り理解したいと望み乍ら、自分の低さの故に何時まで立つても追ひついてゆけぬ事です（アキレスと亀カメへ？）、私は亀ですから、あなたがひるねでもせぬ限り追ひつけない。併もひるねはすぐさめるでせう。永久に追ひかけても追ひつけない。追ひつかうとする丈では満足出来ませんわね、追ひついて一諸ひとに走れなくつては、私は決して一諸ひとに走れぬ事を知つてゐるから、安心出来ないのです。何時かはあなたは一諸ひとに走れる人を見つけるでせう。亀をまち乍ら走るなんて事は、永久につづきませんもの。私の亀的存在はとてもと変り相もない。追ひつかうと努力する亀さん、それであなたは満足出来て？ 亀も、もう疲れました。又明日書きませう。

私はあなたを信じてゐます。誇つてゐます。あなたの仕事を期待してゐます。亀さんなりに理解します。明日おもちを送ります。するめのあたまがあつたので、だしに出来るし送らうと思つてゐたら、お母さんがお世辞にひつかかつて、材木屋のおばさんにかけてしまつた。お母さんの事を「奥さまはカンノンさまの様に慈悲深い」と云つたので。あんなずるいおばさんになんてあげるなんて、もつての外ですわ。

何にしてもあなたを共連れに嫌なき持に追ひこんだ事は本当にすみません。あなたの仕事を充分理解するのは本当に私には六づかしい事ですが、一生けんめい追ひかけくついてゆきます。其のためにも少々認識をまさうと、哲学などと云ふ野心を起してゐるのですから、それに免じてゆるして下さい。

(文末に添えられた小さな亀の絵は省略―編者注。)

亀より

謙一から幸子あて(一九四五年一月二一日の記)

一月二十一日(日)曇。

昨夜はさう晩くまで起きてゐなかつたのに、今朝本当に眼がさめたのは八時半でした。だから御飯が出来上つたのは午前十時半。曇り日で風の寒い日です。今日は早川君から遊びに来て云つて来てゐるので、夜出かけるつもりです。早川君の所へは昨年十一月末以来、即ち空襲が頻度を増して、防空団長たる僕が事実上禁足状態になつて以来、御無沙汰してゐるのです。二、三十分以内で帰れるところでない、日曜の昼及び普通の日の夜、外出が出来ません。何しろ早川君の所は、二度乗りかへて、一時間以上かかりますからね。今夜はさひはひ小使さんの亭主君がこちらにゐる日なので、出られます。小使さんの亭主君は本室の守衛をかねてゐるが、防空当番強化以来隔日ぐらゐに本室へ宿直なので、勢ひ僕が分室の防衛に全責任を負ふ。ここへはバクダンばくだんは落ちないが、空襲のあつたあとで、本室その他と連絡報告をかはさないといけないので、一時間もかかる所へ外出することは出来ないのです。だから僕は禁足手当を出せと云つて交渉してゐます。

同盟週報はこの頃殆ど出てゐないやうです。出れば買ふやうに、小田中さんにも昨日頼んでおきました。やはり毎日出てゐる人でないと買へない。それよりあなたから、同盟通信「海外電報」を注文したらいいかと思ふ。之は東京都麹町区日比谷公園二番、同盟通信社発行で、日刊ですが、年に三百円とかです。之は北条君がとつてゐるさうです。僕もとりたいが、三百円はさしあたり無いし、それにここには一部調査会とつてゐるので、ついそのまま見てゐます。今迄は之は個人ではとれないのかと思つてゐたら、北条君がとつてゐると云ふから、ふと思ひついたので、一応そちらから海外電報係へ問ひあはせてみたらいいかと思ひます。週報が買へないので、同盟通信「海外電報」と云ふのがあるさうだが、個人でとれるかどうか。どう云ふ手続きをすればいいか。お金は僕が印税からまはせると思ひますから貸して

おいて下さい。あなたに借りが多すぎて気がひけるのですが。之なら郵送してくれると思ひます。今年一年分（一月一日から）とれば、非常に面白いと思ふ。之には週報にのらないものもよくのるし、ルーズベルトやスタさんやチャーチルの演説も全文がのります。外に資料として、例へば最近のものでは、ポーランド問題、ギリシャ問題、フランスの状況、その他我々が知っておくべき多くのことがのります。日刊ですから、そして一日分は十六頁ですから、一年ためると本棚一段くらいになります。一月毎にとちておくと、今時立派な資料です。スクラップよりずっといい。一月毎に索引もつきますから。それをあなたの所へ保存しておいてもらへると、将来僕が歴史を書く時の材料になります。

今日午前中二回郵便受けを見に行つて失望して来ましたが、三度目、二時頃にいつか沢田君が連れて来た学生（帝大西洋史）の松浦君とかから電話でお伺ひしたいと云つて来たので、火を起しに下りた時、あなたのNo.12（十八日付）を受けとりました。切手三枚はつてゐたので、中味は晴か曇りかわからないながら、とにかくこれだけの分量が書けるなら身体もよくなりつつあるのだらうと思ひました。

読んでみて、あなたの身体が思つてゐたよりはるかに悪いらしくてびつくりしました。丁度去年の三月にびつくりしたやうに。してみるとやつぱりあなたを妊娠させたことは間ちがひだつたやうです。で、今すぐお父さん及び専門医によく診ていただいて、あなたの身体が妊娠と分娩に耐えるかどうかを厳密に判断してもらつて、避妊が必要ならすぐその方法を御とりなさい。僕もそれについては、そちらへ行くやうにしますから。

僕は子供が出来ることにうれしくなつて、あなたの身体のそれに耐えるやいなやについて、つい考へることをおろそかにして申しわけなく思ひます。あなたのお手紙であなたの身体のよくないことを知つてゐても、あなたは冬には弱いのでからと思つたのと、つわりなのだらうと思つたのとで、つい軽く考へがちだつたのです。その結果さう云ふあなたの身体の不安から主として来る気分上の障害や精神の動揺、内向を無慈悲に批難して来て、本当に申しわけないと思ひます。僕もあなたの固執を、妊娠前のそれの単なる延長のやうに感じて、どうしていつまでも同じことをむしかへすのかといらだたく思ふのみで、さう云ふ固執の新しい身体的根拠に考へ及ばなかつたのです。

僕はあなたと結婚した当初から、いやあの恋愛と難渋との途中から、あなたが僕を本当に欲求してゐるのでないと云ふ想念に憑かれて、今に到つてゐるやうな気がします。二人の恋愛、いや二人の交友の恋愛としての出発の当初には、僕はあなたから欲求されてゐることを感じ、僕もあなたを全世界を敵としても欲求すると感じ、この相互欲求の確認が一切の根拠にあつたのです。この相互欲求の確認こそが、僕に於て、正義の感覚だつたのです。この正義の感覚を背後に

もつたからこそ、普通には不道德とされるやうなすべての行動も、不道德でないと確信してなし得たのです。この確信と確信とは、昭和十一年の秋、I君との交渉が進む頃まで、全くゆるぎないものでした。だからこそ僕はどこへでも進んで行けたのです。所が翌年二月、三月には、之は決定的な動揺へもち来らされた。あなたが僕を本当に欲求してはるないと云ふ現実に心づいたからです。あなたはI君との生活の不合理の解消を欲求した。そして僕は、そのスプリングボードだったのかも知れない、或ひはまた、I君との生活の解消の困難を押し切るほどの強さでは僕を欲求したのでない。少くとも僕が全世界、家や学校や友人や一切を敵としても欲求したほど、それほどの強さで僕を欲求したのでない。さう云へばたしかに、僕は人から真に欲求されるやうな人間でない、僕の一切の欠陥、悪、は僕自身をすら自分と云ふもののうちこめなくしてゐる、いつも自己嫌悪から離れられないでゐる。僕が或程度持続して、二十才の頃からの自己嫌悪を忘れ得たのは、あなたが僕を本当に欲求してくれたと感じた時期だけだった。だからそんな僕を、あなたがもう欲求しなくなつたのも当然かもしれないと思つた。

けれど僕の方ではあなへへの欲求は決定的だつたのです。あなたなしに自分の生活のないことの確信は、前年の九月の一時的な不和以来決定的だつたのです。だからどんなにしても自分の目的を達成するより外になかつたのです。で、殆どすべて僕の強引なくらいのイニシアティヴを以て、二人の生活をともかくも形作つて了つた。

結婚後もあなたは僕を、僕があなたを欲求するほどは欲求してゐないのだ、といつても僕に感じさせた。あなたは「二人」と云ふ単位で物を考へるより、あなた一人、妻としての女としてのあなたとして物を考へ、二人の結合を解消可能のものとしてとりあつかふことをやめはしなかつた。少くともいつも僕はそれを感じた。あなたは、僕があなたをつかまへてゐないと、僕から時々離れる怖れがあると僕に感じさせた。あなたの僕に対する献身にすら、さう云ふ感じを全くなくすることが出来なかつた。僕のあなたに要求する勉強なり何なりに、あなたが従つてくれる場合も、ともするとあなたは受動的であつた。その受動性は、僕を欲求してゐるのでないと云ふ二人の結合の現実を反映してゐるものと僕は感じた。

かくして二人の七、八年の生活を通じて僕は、二人の結合は僕の一方的欲求によつて成立し、持続してゐるのかも知れないと云ふ疑惑を完全にはすて得なかつた。之は僕の愛情の理論に対するひそかなうしろめたさになつた。此の間森井さんに話してゐた時も自分でそれを感じた。彼女も云つた。「幸子さんの方ではあなたを必然的に欲求したと云ふより、前の生活の矛盾の方が切実だつたのですね」「さうかも知れないのです。僕はそれでもいいと思つた。たとひ今、僕を

目的でなく手段として欲求してゐるにしても、今にきつと僕を目的として欲求するやうにして行ける、それは僕自身の生き方によつてして行ける。今偶然的なものでもきつと必然的に發展させて行ける、と」。むろん僕は、自分があなたから本当に欲求されてゐるのでないと云ふ風な、不幸な考へで終始生きて来ることは出来なかつた。僕はむしろ平常は、二人の相互欲求の確信に於てこそ生きて来た。けれど時々、何か矛盾が起つた時、あなたが僕の仕事へ関心を示さない時とか、僕を批難する時とかには、その感じを、即ちあなたはやつぱり僕を本当に欲求してゐるのでないと云ふ感じの浮び上つて来るのを、どうにも出来なかつた。おさへてもおさへても水面へ浮び上つて来るごむまりのやうに。僕はそのゴムまりに対して適切な処置をとり得なかつた。

そして最後に、「プランテーション」を書きはじめ、それをあなたに読んでもらはうとして駄目だつた時、あなたの生活が僕の生活から別の方向に進むのを見た時、そして病氣になつた時、それまではあなたが僕を欲求しなくても僕はあなたなしに一日でも過ごせない、僕はあなたを欲求する、と心に感じつつづけて来たものが、さうでもなくなつたのです。僕は一人で仕事が出来、僕は仕事の方を欲求する、と。あなたと一緒に生活よりも、仕事と一緒に生活の方が、僕の精神は満足する、と。仕事と一緒にの方がひたむきになれる、と。

「プランテーション」の理解者となつて以来は、僕はあなたを情緒的にだけでなく伴侶的理解者として欲求するに到つた。だから今は問題は外的条件に、即ち戦争、空襲、物質生活等のみある。それらに対応して二人が、仕事と二人自身の生活とを持統するためには、正常の形態では駄目だ、一種の奥地退軍的戦術、分散戦術、避退戦術（ヘッジワグ）が必要なのです。そしてこの奥地退軍分散戦術に最も重要なことは、二人の精神的結合をより強化することです。所が、僕の方では右にのべたやうに疎開前後の数ヶ月以外の全部を通して、あなたを欲求しつつづけて来てゐる。之はいささかのいつはりもない眞実である。

だが、あなたの僕への欲求はどうか。

あなたは上述の如く、殆ど当初からずつと受身であつた。欲求するより欲求される側だつた。生活をリードすると云ふより、註文をつけたり抗議（クレーム）したり抵抗したりする側だつた。だからこそよく二人の結合についての不安や疑惑を口にした。始終受動だつたのではないが、概して受動態であり、僕を疑つた。そしてあの僕が仕事に夢中になつてゐる時、「空襲になつて食べ物がなくなつたら信州へ帰る」と云つた。深い意味ではなく偶然的な冗談的な言葉であつたにしても、

僕にひびく所は実に深刻だつた。それは「あなたが僕を欲求してゐない」と云ふ、之まで抜け切らずに來た觀念の總決算にもひびいた。疎開後あなたは抗義した。僕のやりかたの專横を批難した。その批難はたしかに受取る。けれどその批難には、僕の欲求に対するあなたの反応のなさ、あなたが僕を欲求してゐないと云ふ僕の感じ、を融解してくれるものがなかつた。あなたの批難は、僕があなたの自尊心を傷けたことに対する憤懣、あなたを邪魔あつかひにしたことへの憤懣で貫かれてゐると感じた。

その後あなたは僕を本当に欲求すると云つてくれた。口に出しては、殆ど初めてではなかつたかしら。あなたが真情から僕を欲求してくれると云つたのは、昭和十一年の夏頃、我々の出発点の時、以後は殆ど始めてに僕は感じる。にも拘らず、この度の欲求に、僕はやはり、邪魔扱ひにされたことの憤懣やうらみの翳を見ないでゐられなかつた。その後、あなたの僕への欲求は、あなたは僕を信用しない、僕をあきらめる、自由にしてくれ、式の言葉で濁らされた。そのあなたの僕への不信こそは、この七、八年の二人の生活の全体を通じて、何かの矛盾の度にあなたが云つた二人の結合への不安、不信、いつでも別れるぞと云ふ態度、とつながつてゐるものに感じた。だから僕は、あなたの僕への欲求をまだ本当に確信し切れずに來てゐるのです。この間のやうな不信手紙が完全になくならない限りは、あなたが僕を信じて、前進生活へしつかりと腰をすえない限りは、此の困難な時代を生きぬいてみせるぞ、亭主が死んでも亭主の分まで生きぬいてみせるぞ、謙一と自分とは二つでなく一つだ、片方が時代の強力によつて命を失つても、まだ自分と云ふものがある、そして自分は謙一幸子の生活を生きついで歴史へ参加して行くぞ、と云ふ氣構へがはつきり見られるまでは。さう云ふあなたを僕は欲求しつづけて來た。僕があなたとの恋愛以來、最初は漠然と、だん／＼にはつきりと欲求して來たものは、さう云ふあなたなのです。だからさう云ふ方向にあなたのある限り、僕はあなたを欲求してやまない。あなたがさう云ふ方向から逸れると僕は苦しみ、いら立ち、不機嫌になるのです。でも苦しみいだち不機嫌になつても、あなたをあきらめたことはなかつた。だから信じて下さいと云ふのです。

あなたの身体が考へてゐたより悪かつたのに僕がそれを察せず、あなたの氣分をとがめ立てして來たこと、不親切だつたことをおわびしようと思ひながら、反対のやうな手紙になつて了つた。けれど、とにかく本当です。この数回続けて書いたこと、いや去年の秋以來、あなたの不信手紙の一张张へ答へて來た手紙は、僕のいら立ちやとがめ立てや不親切やがいつぱいつまつてゐても、それらを一貫してゐる苦の僕の真情を読みとつて信じて下さい。そしてあなたの現実的問題、身体のこと、避妊のこと、勉強のこと、あなたの周囲の人々との人間関係のこと、僕との「一つ」の生活のこと、

をよく考へ最善に処置して下さい。僕が仕事で、またはこちらでの人間関係のことで、手紙が「しぼりかす」のやうになつても、不機嫌にならずに下さい。

桃ちゃんも本当に残念でしたね。でもあなたが彼女を元気づけ、導く力を信じます。お父さんやお母さんや不二ちゃんの御身体にも障害のないやう、少くとも軽くてすむやう念じます。僕の方は安心して下さい。

僕のやりかたへの(対人関係)あなたの御意見は全幅承認します。僕は之でも自分でずい分努力し、せつかちにならんやうに、相手の吸収を待つやうに、吸収を親切に容易にするやうにしてゐるのですが、どうもいつまでたつてもうまく行きません。結局人間が小さいのです。それでも話をききに來てくれる人がとにかくたえないし、來ない人でも僕のことを考へてくれる人々もゐるらしいので、失望せずにやつて行きたいと思ひます。

松浦君(西洋史、今年三年)も三時に來て六時まで、いろんなことをしやべつたりきいたりして行きました。その中、肉がは入るかも知れないから持つて來ますと云つてくれました。沢田君もずい分はげしく生活してゐるらしいです。若人達も元氣です。尤も松浦君(之は一年兵隊に行つて來たのですが)は勤労働員で、血沈をとられてことはられたのださうです。之から時々來ると云つてゐます。

六時に、彼は田園調布なので、一緒に出ました。早川君を訪問するために。早川君は時々一行か二行のハガキをよこします。二、三日前のハガキも「郷里へ暫く歸つてゐました。もう出て來ましたから遊びにおいて下さい」とあつたのです。ハガキの中々買へない時代に、いささかもつたいない氣もするほどです。彼も入学試験のことなどで歸りがおそく、八時頃まで歸らなかつたので、それまで奥さんの名古屋のはなしをききました。地震と空襲。

十時までしやべつたり、数学の積分の説明をしてもらつたりして歸りました。歸りに醬油をビールびんに一杯もらひました。之は僕の一ヶ月分の配給に相当します。小田中さんの「おみそ」と早川奥さんの「醬油」とで、僕も助かりました。まだ配給(一月分)がいっは入るかわからないのです。いづれも僕が「ねだつた」のではないから御安心下さい。早川夫妻は僕のズキン、上つ張、ジャンパー、モンペ、足袋の姿を大いにほめてくれて、早川君もルパシカ風の部屋着をつくつてくれとか、膝でしめるモンペ(神代のズボンのやうな)をつくつてくれとか、ズキンをたのむとか、奥さんにねだり、奥さんは僕のものを見て、「お上手だ」と、僕の謙遜(あなたのことを独断で謙遜しておいたのですが)にも拘らず、手ぎわをほめました。ついでに、僕の顔によく似合ふとまでほめことば(?)のとばつちりをあげせて、僕をして、いかに受けとるべきか戸迷ひさせました。

帰つて余りさむいので、炭火を起してあつたまつた所です。では之くらいにしませう。なほ、今週から向日荘の連中に「プランテーション」の講義をはじめの予定だが、あなたの今日のお手紙の御意見は、充分参照してやつて行きませう。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二二日付け、同日の消印）※

さつき新飯田橋郵便局から書籍、藥品と云ふ小包み送りました。中はお餅です。他に何か一諸（註）に入れ度かつたのですが、丁度お母さんが御機嫌わるく怒つてゐる最中なので、あれ丈にしました。此のごろお母さんの怒らぬ日はなく、一ツの材料があると、四日位はたつぶりいろいろに使つて、小言の種にするので本当に困ります。非合理主義のこち／＼なんですから、何とも扱ひ様がありません。朝ちやんも本気に怒つて、毎日喧嘩してゐます。小言を云ふ事が楽しみの様にも見えます。何も彼も氣に入る様にしても、何時のまにか何かとあらを探し出して怒る材料につきません。あれが姑根（註）生と云ふのでせう。

お茶と煙草を送つて下さつたと、前の手紙にありましたが、未だ届きません。煙草はもう品切れなので、毎日もう来るか／＼とまつてゐます。此のごろのこちらの配給は殆んどきざみですから、専らふうちやん用で、お父さんのはありません。お父さんも沢山あるとパツパと吸ふ方なので、今度から一度に出さず、チビ／＼出してあげ様と思ひます。一日に五本位づつ。

お父さんが病中何かいいものないか（本）と云ふので、A・フランスのエピキュールとわが友の書と白き石を出してあげました。珍らしくゆつくり／＼楽しみ乍ら読んでゐるらしく、エピキュールにはほと／＼感心して、一体何年頃の作品だらうとかいろいろ質（マ）ねてゐました。老年になればなる程、あの二冊の面白さは解るでせうね。

ゴリキイの母、あなたがひどく推賞するので、それでは近日中もう一度、歴史を念頭に置きつつ再読して見様と思ひます。其の上でもう一度考へてみて、感想を書きませう。

今日はひどく肩つまりで、首が動きません。もう一つは昨日からの便秘。日記表を見ると、衛生欄は下痢／＼便秘／＼の二種類で埋つてゐます。時々腸の一部分、怠まんを起すところ、あるひは弱つて使ひものならぬところを二尺か三尺、お父さんにチョン切つて貰つたら、ずつと状態は合理的に永久的に解決出来るのぢやないか、などと思ひます。八月のお産の時、胎児が健全に成長してゐれば、帝王切開の必要があるでせうから（此の前のはあまりにも少（註）さかつたか

ら普通にゆきましたけど)、其の時一諸に腸を引き出して見て貰はうかとも思つてゐます。妊娠中の手術は麻酔の関係で、胎児にいけないのでせうから。

合衆国史は今再建で、昨夜たつぷり読んだので、今日はノオトをするばかりなのですが、首がまはらぬからどうも進みません。第三章は特に面白いですね。竹中さんと同様、もつと精く具体的(個別)面がはいつて来て、論理と個別との統一が展開されてゐたら、本当にすばらしい事でせうね。

私が一寸リンカーンの事を話したら(リンカーンは普通の本に出てゐる様な、始めから奴隷解放の英雄ではないこと、始第にさうさせられた)、桃ちゃんは大さう興味をもつて、合衆国史をきかせてほしいと申します。これを私が使はぬ時、一人でおよみなさい、と云つて渡しましたが、暫くよんでから、これを読むよりも、お姉さんの話してくれる方がずつと面白いし解る、これでは一人歩きは出来ないと云つて、かへしてよこしました。本当にあなたのは言葉が六つかしいし、エッセンス的なんですね。私が水を埋めたりして長くするとおいしくなるのです。高□的すぎるのかしら。あれ丈の内容、問題を含み乍ら、叙述形式の点丈で大勢に味はへぬとしたら詰らないことね。あなたの形式は内容とあつてゐるのでせうが、現在の一般にはあはないのではないかしら。もつともつと先の、進んだ状態に於いての形式です。矢張り此の前、あなたの講義・説得について云つたと同様の事が、ここにも(私から見れば)あるのではありませんか。誰にもわからせると云ふ事は、本当に六つかしい事です、本を書くことの目的の一ツはそこにもあるのぢやありませんか。内容を落す事なくて、理解を早める、理解しやすくすることは太切な問題でせう(併し、あなたのそれが、他のアカデミックな本のむづかしさの内容と相違してゐる事は、はつきりわかつてゐますけれど。あなたのは相手を同等に見積るところから来てゐるし、一方は俗人にはわからせぬと云ふ目的があるでせう)。

南北戦争中のドイツ労働者が、労働運動を本格的な軌道に乗せ、又他方、戦線でも英雄的に斗つたこと―あそこをよんで、マナサスを思ひ出しました。マナサスの中でも終りの方に出て来ますね。アラン(主人公)がマサチューセツツ人部隊として、ボストンの聯隊に編入されてブロードウェイを出発し、行進を始め、始めの馬鹿さわぎは影をひそめ疲れ弱つて来た時、自分の中隊の軍曹に言葉をかけられる。(以下、U・シンクレア『マナサス…南北戦争』より、アランとこの軍曹との会話が、およそ用箋一枚半にわたつて抜き書きされているが省略―編者注)。

此の彼(軍曹―編者注)はマナサスの戦斗で終止英雄的に斗つて死んでしまふ―ことが出て来ました。これはシンクレアのつけたしだと思つてゐました。ジョンブラウンの事は狂信者に描かれてはゐるが―他の点、いろいろマナサスは面白

いすね。具体的な精しい点を知るため、もう一度、下巻丈よんでみ様かとも思つてます。サムナー事件なぞ生々(トキ)に描写されてゐますからね。(シンクレアは大体、歴史上有名な人物を引き合ひにするのが好きの様です)。

再建時代の事はプランテーションでは具体的なつながり点が割に省略されてゐましたので、よく解らぬところもあつたが、これでよくわかつた様です。プランテーションには、此の合衆国史が姉妹篇とでも云ふ様に切り離せぬ様に思ひます。プランテーションで歴史が書けなかつたと、あなたが云つてゐましたが、これを姉妹篇にすればいいぢやないの？兄弟の様な、双児の様な強いつながりがあつて、両方でおぎなひ、助けあつてゐると思はれます(此の歴史はあなたに不まん足なのでせうが)。

書きたい事はうんとありますが、どうも肩が張つて、頭痛に責め立てられますから、今日はこれでさ(トキ)ようなら。

※この一月二日付け、同日消印の封筒中には、一月二日夜および二四日記の手紙文が挿入されていた。他方で一月二四日付け、二五日消印の封筒には、一二日ごろに記したと思われる手紙文が挿入されていた。両者は封筒と中身の用箋とが、何らかの事情により相互に入れ変わったのであろう。ここでは中身の用箋を元どおり差し替える形で翻刻・掲載した。

謙一から幸子あて(一九四五年一月二日の記)

一月二十二日(月)晴

あなたの身体の調子はどうでせうか。かう云つても、この言葉のあなたに届くのが五日も後だと云ふと、実感かうすらぎますね。小包にしても手紙にしても、飛脚時代の方が早くて安全だつたのかも知れない。

暫く小言まじりの、乃至は大部分小言から成るやうな手紙を書きましたが、之からはそれはよします。我々のやうに毎日お互ひへ書くことが生活の重要部面をしめて来ると、その手紙が相手の生活の前進へ拍車となるやうな、少くともリクリエーションになり、気持のむすぶれをとき、生活の苦しみを柔らげるやうな、さう云ふものである必要があります。お互ひの生活を暗くし妨げわづらはしくするやうなものであつてはいけません。殊に四日も五日も経つて届くとすれば、その場その場の感情や情緒の必要以上の定着は避けねばならない。お互ひの生活の真相を伝えるに必要な程度をこえないやうにしなればならない。

何か新しい思索を導いたやうな手紙、新しい問題について考へる機会になつたやうな手紙、漠然たる想念を疎外して確認する機会になつたやうな手紙、さう云ふ手紙なら、どんなに精力と時間をかけても悔いない。いつもさう云ふ手紙を書きたいと思ひます。

今日はあなたのお手紙が届かないので、竹中君との対話を久しぶりに書きます。書くのは久しぶりでも、やつて来るのは毎日です。

「そんなにもいつもコーヒーを御馳走になつちや悪いね」「かまはんよ。嗜好品と云ふやつはサブスタンシヤルな食ひものところがふんだ。嗜好品の摂取は、摂取と云ふより鑑賞だからね。心理的要素の方が大きいんだ。だから一人でのむより、本当にコーヒーを好きな友人、いはば共鳴者と一緒にのむ方がうんとうまいのだよ。一人で三杯のむより、三人で一杯づつのむ方が心理的な価値は大きいのだ」「そりやそうだね」「だから三人で飲んでるやうでも、僕自身としては自分が三人前のもんでるやうな心理的満足を感じるんだ。之が飯になると必ずしもさうではない。今のやうに逼迫して来ると一人分の飯を共鳴者と一緒に食ふことは恐怖に近くなる。君はしかし相かはらず、しようこりもなく大飯をくつてゐるんだらう。にぎりめしを八つも」「八つも食はんよ、四つだよ」「さうか四つか。四つでも大変だよ、あんなでかいの。僕なんかこの弁当一つをうつつかりすると二度に食ふことがあるよ。かぶらや大根やなつばをうんと入れた雑炊を作ると、二度に食へるんだ。だから米を(たうとう)とく一斗余しちやつた。この一斗はまさかの場合に必要だが、之から余して来たら、時々わけてやるよ」「うん、有難う。大体家ちや一升三合ぐらい一日にたくんだね。所が配給ちや一日八合だ。五合足りないんだよ。一月に一斗五升か」「そんなの非常識だよ。大体ね、創造的な生活をしないと官能的な満足を追ふことになるんだ。小田中さんがね、憂鬱になるとふとんをしいて寐て了ふさうだがね、僕も考へてみると、何かやり切れない心情の苦しみに会つた時、ふとんの中へもぐりこんで了つた覚えがある。むつかしい問題や憂鬱な現実に圧迫されると、食慾なんかなくなるのが普通だと思つてゐるだらうが、さう云ふ時、せめてうまいものでも食ひたくなるんぢやないかな。飲酒だつてたばこだつてさうだ。結局現実的な圧迫に正面切つて向ふことが出来ずに、官能的な満足へ逃げこむのだ。之はまぎらすとかごまかすとか云ふんぢやないね。忘れるとか解放されるとか云ふんぢやない。人間的な生き方が困難になると、動物的生活へ後退するんだ。困難さにたちろぐとか一休みするとか云ふのぢやない、後退だ。酒をのむことを物食ふことより精神的なことに思つてゐる手合が多いけれど、それらはみんな或る種の人が遊廓へ行くのと同じ意味だ。みんな本当に人間的な満足を達成し得ない時、その人間的な不満を官能的満足、非常に達し易い官能的

な動物的な満足の中へ埋没させて了ふのだ。君の大飯もそれに近いぞ」「そんなことないよ。だけど本当だね、仕事があつたり、することがあつたりすると、余り食ふことを考へないね」「さうだらう。それでも五合も足りないのは気の毒だね。せめて三合ぐらいにすればいいのに。三合なら一ヶ月一斗だらう。僕が一升や二升やつても、一日分か二日分なんだからいやになる。僕が一升を余らせるのに十日ぐらいかかるんだからね（去年の十一月、十二月に二升余り進呈したのです）。それはさうと例の一件はどうなつてゐるんだい」「あれか。あれはどうも君の希望するやうになりさうだよ」「どんな風に」「うまく行かないんだよ。やつぱり中に立つ人が両方をよく理解してゐたんぢやないんだね」「A君だらう。そりやさうさ。彼女は人間をリアリステイクに理解出来る女ぢやないよ、今の所。感情的で嫉妬深くて固執的だ。それでどつちの側から進まなくなつたんだ」「両方からだね。だけど、それでよかつたと思つてゐるよ」「そんな風ぢやよかつたもくそもないよ。僕の希望するやうになつてはゐないよ。僕は君が断乎と拒否するやうに希望してゐたんだ。所が君自身で決定したんでなく、なりゆきがうまく行かなかつただけぢやないか。それなら、これがうまく行かなくて、すぐまた同じやうな話が出来て来るだらう」「さうだね、後統部隊ありだね」「一目標か」「数目標だ」「しよがないいね。どうしてかう物事の道理がはつきりわからないんだらう。之は僕のせいぢやないね。社会的偏見が余りにも大きすぎるんだね。この社会的偏見の巨大な圧力とたたかふには、もう素の論理ぢやだめだな。僕はつくづく思つてゐるんだ。僕の云ふことは誰でもがうなづくべき真理だ。反駁の余地のない、はつきりした真理だ。それなのに人がそれを受け入れないと云ふのは、僕の何が悪いんだらうか、とね。どうも僕は人間的魅力がないのだ」「君は魅力あるよ」「さう云つてくれるのは有難いが、魅力があるなら、もつとつて来る苦だらう。所がついてこないんだ。魅力が本来ないだけでなく、魅力をもたうともしないのが、いけないのかもしれない。併し僕も弘法者や宣伝者ではないのだから、そんなものなくてもいいわけだがね。ついて来なくたつていいわけだがね。だけど僕の論理そのものに、もつと魅力がある筈なんだがなあ。併しそんなことはどうでもいい。それより君のことだ。うんと考へろよ。まだ後統部隊がはつきりあらはれない間に、今度のことの経緯をしつかり考へるんだね」「うん、考へるけど、やつぱり駄目だね。それより君の頭、ずい分のびたね」「僕の頭なんか、どうでもいいよ。どうも世の中つてのは、いつの時代になつてもおせつかいだね。さうさう、昨夜友達のところへ行つたらね、その友達もめつたに頭を刈らない男だがね、相変らず数ヶ月刈らない自然林的な頭をしてるのさ。そしたらね、奴さん、工業大学の先生だが、学生からトク名の手紙が来てね、先生頭を刈つたらいかですか、少々みつともないですから、つて云つて来たさうだよ。素姓の知れない学生なんか相手にしてゐ

るとそんなことになる」「だけど君ももう何ヶ月だね」「九月末からだだからまる四ヶ月だ。中味がスツキリしてゐるから、外はいくらうつつさうとしてゐても大丈夫だよ。君なんか中も外もカリカリ頭だ。尤も僕もいつ、いやおうなしのカリカリ頭になるかわからんからね。それよりヘーゲルもつて来てくれたか」「持つて来たよ。君が読んだら話をきかしてくれよ。君にきく方がよっぽど面白くてよくわかるよ」「よし／＼、便利な存在なんだね」。

僕が読んだら鉛筆でかるく筋をつけておきますから、あなたが読む時ノートしておいて下さい。僕の筋だけでなく、あなたの筋をひきたい所もノートしておいて下さい。

今、ME^原芸術論をあなたへ送る前に通読してゐます。

東京では一室一人ぐらいの割で住まなければならないことになりさうです。本室では二十人宿直せよと云はれてゐるさうだし、ここでも若し一室一人なら十人ぐらい必要でせう。所が事実上それは不可能です。いづれにせよ、防空対策は大分本格的にやかましくなつて来てゐます。一室一人なら原宿の家でも四人必要になる。

今日は月給がはりました。五〇円お送りしようと思つたが、砂糖やコーヒーを買ふつもりなので、三〇円だけ送りま^す。之も為替をくむのにすぐと云ふわけに行きませんが。此の頃東京のものの値段の高さは、その品物に比べて、余りべらぼうなのでつまらなくなりま^す。先日あなたへのプレゼントの小箱、あれが二十一円幾ら、仁丹入れが九円です。プレゼントの値段なんか云つて了つては何にもならないけれど、昔ならそれだけで相当のハンドバック一つ買へたところですからね。僕の紙入れの二十二円だつて、昔ならどんな上等品が買へたかと思ひます。コーヒーの一ポンド十五円にしても、昔は一円五十銭。サトウの百匁二十六円に到つては、いや実サイには三十六円乃至四十円ださうですから、二百倍ぐらいですね。上海の物価は五百倍とか六百倍とか云ふが、日本だつてさう安心出来ません。だがヤミの話はやめませう。此の頃はお腹の物足りない時でも、コーヒーの甘いのを二杯のむと先づ満足します。変な話だが、小便までコーヒーの香がします。

今日の手紙はつまらない手紙で、あなたの生活に何にも与へないけれど、御ゆるし下さい。

東部戦線の進捗ぶりに驚いてゐます。同盟の「海外電報」を註文してみて下さい。戦局なんかも割合ひくはしく出ます。

では。身体に気をつけて。避妊については、よくお医者と相談して下さい。そして万全の策をとつて下さい。またあなたのほしいものは何でも云つて下さい。西山さんの本は探してみませう。何かあるのかわからないけれど。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二三日の記・消印）

一月廿三日

マナサス第一巻の第一部丈を読んで見て、此の前（十九年十一月）に読んだ時とは、又異つた面白さがありました。丁度三ヶ月しか経つてゐないのですが、合衆国史の第三章で得た理論と問題のせい（註）でせうね。人や情勢や事件を、前よりも知つたためでありませう。読んで覚えておるでせうが、書き方は中々凝つてゐますから、参考にすこしならべてみませうか。理論と具体的個別が（勿論第一流とは云へぬ、ほり下げの足りぬ点、追求のあいまい、怪しいところも方々にある様に見えますが、其の辺のところは其のつもりで読みさへすれば）割合うまく交互につきませられて出て来る様に思はれます。（以下、U・シンクレア『マナサス…南北戦争』第一部について、その要約・抜き書きなどが、用箋六枚にわたって記されているが省略―編者注）。

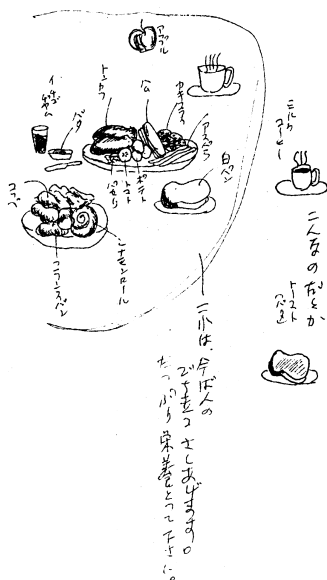
No.11、20日附落手。

浮腫はもうすつかり引きました。食欲も出、めまひもな（註）をつた。下痢と便秘丈征服すれば終りです。夜寒さうですが、もう着てゐるものはないの？ もうすこし何か残しておけばよかつたのね。信州は寒いけれど、私は炬燵の番人だから、寒いと思つた事は殆んどありません。幸福ね。私が身体がわるい（註）と云つて、ぐち云つて、あなたのせいのようにして、すみませんでした。それ程の気もなかつたのだけれど、遂、思ひやりが足りないから、さう書いてしまふんですね。さう思はぬ様にして下さい。毎晩ねる前に「あなたの健康を祈る」のですから、そんな風にあなたに思はせてはなんにもならないのね。きつと今後はそんな手紙を書きませんから（と云ふのは、もう大変元氣になりましたから、身体のわるさのぐちは出ないから）。

新聞研究会と云ふのは、此の前の英国の話や、あなたのアメリカ政治の話などの会ですか。ヘーゲルはまだく先のことですから、「精神現象学」とかは半年位も後で結構です。あまり早く着くと重荷になる恐れがあります。プランティン（註）ヨンの講議はまだでしたのね。どんな風にやるのか、「基本」をかんたんに私にも知らせて下さい。

十六日附の手紙、どんな風な事を書いてゐたのか覚えてゐないけれど。とに角もう、くよくよするのはやめます。私自

身もほとく嫌になりました。あなたはもつと嫌だつたでせう。柄にもない事は駄目なのです。ひねくつたり大げさにしたり、とに角自分でそれを楽しんだ覚えはありません。それが大きな障害になつたとしても、一応は私の歴史はそこを通らねば、前進出来なかつたのだと今でも確信してゐます。そこをすぎたからこそ、謙きよに勉強を求めるところまでゆけたのです。併し其の事が私丈の事でなく、あなたに決定的な害悪を与へてゐたとすると、又問題は別に展開すべきだつたのかも知れませんが。前進のテンポの差にあまりにもこだはりすぎた事は本当です。それが本当に苦勞の種であつたのですから。あなたの云ふ通り、それはたいした重要さはありませんのね。ようく解りました。重要な点は努力してゐるか、それであるかにあるのですね。何と骨の折れた事でせう。ここまで来るのが、で、もうこれで終りにします。



謙一から幸子あて(一九四五年一月二三〜二四日の記)

一月二十三日(火)晴曇

ひよいと鼻風邪だなど気がついてみると、顔の中央部一帯くしやくし、ヒリヒリします。クシヤミをしては鼻をかむので。こんな風にして平家蟹のやうな顔が出来るのでせう。

今日はいよいよお手紙を受取りました。廿日付No.13です。快晴と云ふほどではないが、まづ身心ともにさう不都合はなささうで安心です。だが避妊すべきか否かについては、早く診てもらつてきめる必要があります。今のやうな時局展開では、産むだけでなく育てることも、あなた一人の仕事になる怖れが多いから、それに対するあなたの身体の負担能力の

コーヒーと砂糖、なんとすばらしいでせうね。楽しみにまつてゐます。このごろほしいものはもつぱら絵にして楽しんでゐます。こんなのだとか(上の図の右側のミルクコーヒーとトースト―编者注)、それが実物に当たるとは実にうれしいです。これは(上の図のテーブル―编者注)今ばんのごち走にさしあげます。たつぷり栄養とつて下さい。

計量は、厳密を要します。我々の将来の一切の可能性を含んだ生れ出づべき子供も大切ながら、それよりもっとあなたの身体自身の方が大切です。之は僕にとつただけでなく、歴史にとつても。歴史は一切の眞実を知り眞実を志す人間を要求してゐるのですから。

リットルペーヂからのあなたの引用は、あなたの本の読み方のしつかりして来た証左を提供してゐます。それだけ読めれば、何に向つて行つてもいいでせう。哲学ノートを読み出したことはいいことです。リットルペーヂであなたが注意したことは、あなたは余り覚えてないかも知れませんが、実は僕が四、五年前にそれを読んで多くの人に紹介しすめるさい、特にとりあげてしやべつたことと完全に一致してゐるのです。ソヴィエトの「原蓄」（小農民「収奪」、その工業化と集団農場化、リットルペーヂが「革命」と呼んでゐるもの）、スタさんのゴールドラッシュ、殊に民族問題、肅正等。この民族問題と人種問題とは、僕がアメリカの黒人問題に引用するつもりだったので、それより一足さきに細川氏が「改造」の例の論文にさんぐく引用して、それが問題になり彼もゐなくなつたと云ふ因縁つきなので、「プランテーション」へは使へなくなつて了つたのです。いづれにせよ、あなたの引用は、僕の前に読んでゐた所を再確認する意味でも、またあなたの物の観方の進歩を頼もしく確認する意味でも、大変興味深く読んでゐます。

アメリカの黒人問題でも、その眞の解決は、黒人達自身が「プランテーション制度」を破棄して自らを近代化し、工業化し、それに対して白人の進んだ人々が援助し、黒人達の人口比例に従つて彼等自身の幹部を選出させ、彼等自身に責任をとらせ、その間、説得、教育によつて指導すること、黒人達自身のおくれた諸欠陥を、彼等自身のデモクラチックな努力によつて克服させること、之よりない。「再建」時代は、ステイヴンス等はこの方針に近いものをつたが、アメリカ・ブルジョアジー全体はさう云ふ方針に反対した。

今日は小此木君の所へ訪問しました。丁度帰京中と云ふ電話があつたので。彼は月一回三、四日間出て来るのです。今日はピーナツを御馳走になりました。この三年間毎週やつて来たやうな雑談から、「それはさうと、僕が兵隊に行くかどうかになつたら、仕事をそっくりあなたへ譲りたいんだが」「アメリカ史のこと」「うん、アメリカ史も南北戦争も。僕のこれまでの勉強は大部分君の材料のおかげだし、君としやべつて来たことから分り分り示唆も得て来たし、僕自身はまだ問題をとらへたばかりだし、まだオリジナルなものになり切つてゐないのだから、君がやる時、僕と云ふものを全然はなれて下さつて結構です」「いやさう云ふことはないけれど、たしかにお引き受けします」「僕の材料は信州のフラウの所においてあるから、万一の時はフラウの方から君へ連絡させませう」と云ふことになりました。彼なら僕の問題提

起を充分受けとつて、僕よりも恐らく立派に展開してくれるでせう。僕の「プランティション」も彼は最もよく理解してくれるだらうと思つてゐます。何しろあれを書いてゐる間中、いや之までのアメリカ史の研究を通じて、「ウィルソン」(一九三七年二月提出の卒論「ウッドロウ・ウィルソンとアメリカの参戦」―編者注)の頃から、彼にいつでもきいてもらつて来たのですから。そして彼は本もあり、身分も安全(軍需会社の重役で徴集免除)で、田舎にゐて此の時代を生き残る可能性の一番多い人ですから。彼の住所は

栃木県真岡町荒町 久保貞二郎様方

です。彼の所にはギャラリーも出来てゐるし、いつか訪問するつもりではゐるのですが。夕方から曇つて来て怪しい天気になりました。少し降つてくれないうけませんね。此の頃水道の破裂がはやつて、ここでも階下のお勝手が破裂しましたが、なほしてもらふのに十日もかかるさうです。二階は幸ひあたたかいのか、氷ることもありません。汲置きが氷るぐらいのものです。鼻風邪が気持悪いから早く寐ませう。

一月二十四日(水)晴

お手紙(廿一日夜)を拝受。あなたが自信を失つたと云ふことは、次の飛躍の前提として、今まで考へただけでいいでせう。之からは先便数次に亘つて云つたやうに、その自信を外界へ意識をつき進めることによつて、今度こそ本当の实体として築き獲得して行けばいい。「プランティション」以後のあなたの本の読みかた、精神的欲求のありかたは、内向的になつた場合を除いて、僕が結婚の当初から願望して来たものの実現を感じてゐるのです。それまでの全時期を通じて、僕はあなたの「人間的資質」にはちつとも不満をもたなかつたが、世界観、精神生活の欲求の点で意に満たぬもの多かつた。それが今や克服され、もうあなたの世界観、精神生活の欲求は本当のものになつた。一旦その方法の真髄にふれると、一旦現実のディアレクティクを把握すると、いはば豁然として道がひらける。悟入とか悟りとか達観とか、東洋的な多くの言葉も、若干現実認識の機微をとらへてゐるところがある。無論それら仏教的な言葉は、形式が似てゐるだけで内容はまるで逆です。即ち認識の前進の契機でなく認識放棄、現実離脱の契機なのですが。

之から当分あなたは哲学やME、LやS等、所謂ディアレクティク(原文)の世界的把握者達のものを読んで、それらの人々の方法なるものを学んで行くといい。はじめは言葉使ひが馴れなかつたり、哲学と云ふ風な抽象的な思惟に馴れなかつたりして苦しいでせうが、だん／＼馴れて、面白味がわかつて来るでせう。さうなれば、あなたの人間的資質が物を云つ

て来て、きつと僕なんかよりずつと世界観が進むでせう。僕達が心せねばならぬことは、僕達の心の動きが狭いと云ふことです。その点ではアナトオル・フランスの心情のありかたを学ぶ必要があります。僕はやつぱり勉強型や思索型でなく行動型なのかも知れません。だが行動型にしても、もつと大きい心情をもたないといけない。激する時は激しても、たたへる時はたたへる水の如き精神動態、器に従つて形をかへる柔軟な流動的なありかたが望ましいことです。あなたは僕よりはエネルギーの集中持続が勝れて居り、精神の動きも機敏です。僕のやうにカンシヤクもちでも、怒りつぽくもない。また僕より感受性もたしかです。

今隣で西井君と倉橋君とがケンケンゴウくと戦争史のことを云ひあつてゐます。僕の独立戦争を読んで、「これはあなたでなければ書けない。こんな風にかきたいとは思ふけれど、その力がないんです。これはやつぱり『プランティン』と云ふ大作を書いたあなたにだけ書けることです」と云ひ出し、それはさうかも知れないのだが、結局二人で芦野氏の註文がむつかしすぎると云ふことを中心にケンケンゴウくやつてるわけです。僕も外のものについて書かねばならないかも知れない。

ぼつ／＼火を起さねばならない。四時ですから。で、今日もつまらない手紙ですが、このまま出させう。その中僕の原稿を送れるでせう。

小包みは金曜か土曜日にします。金曜に伊藤君に会つて現代史を借りるから。小包の用紙がありませんが、何かのついでに送れたら送つて下さい。お餅を御送り下さつたさうで感謝します。実際ごはんとかぶらはもう飽き飽きです。農家では水曜と土曜と二回売つてくれるのですが、ずつとかぶらばかりです。それでもかぶらもない人々に比べればましの方です。豆類（何でもい）がは入つたら頼みたいと思ふけれど、之は無理する必要はありませんよ。では又。

幸子から謙一あて（一九四五年一月二三〜二四日の記、二五日の消印）**

一月廿三日夜。

今日はこれと云ふ勉強出来ませんでした。桃ちやんは風邪で伊那工業を休んで、一日充血した様な顔をして床についてゐました。朝ちやんは炬燵でねたり、起きて小説よんだり喋つたりしてゐましたので、何時もの様にこたつ板を一人で占領してノオトや本を開くのもわるいし、結局漱石の彼岸すぎまでがそばにあつたのでよんだり、再建のところを読み